

ゴーヘッドズ 速報

Goaheads

第30号 平成25年9月22日

梶原の好走塁がダメ押し点・・・

昌平・祐太朗の一振りが勝負を決めた！

	1	2	3	4	5	6	7	R
G	0	0	0	0	1	2		3
C	0	0	1	0	0	0		1



9/22(日) 本日は日程逼迫している事から、ダブルとなる。その2試合目となるVictoriaマートナイト2回戦を夢の島公園野球場に向向き、今期2度目の対戦となるCyuyans戦を行った。連休中という事から、移動時間に懸念があったが、その心配は全く無く、時間には余裕を持って、球場入りする事が出来た。さて、今日は久々の先攻でゲームは幕を開けた。初回は投手戦の様相を見せた立ち上がりであったが、二回の攻撃で動きが出た。この回先頭が四球を選択し出塁、一死となったが、相手失策により、一死・二塁とする。が残念ながら、後続が続かず、二者残塁とした。ここまで、先発の光希は、対打者7人に対し、4奪三振と上々の立ち上がりであったが、3回に急遽乱れを見せる。この回先頭を四球で歩かす。そしてすかさず、二盗を決められ、無死二塁とする。が、後続二打者を三振で斬り二死、しかし、後続は打ち取った詰まり気味のセカンドゴロ、若干バウンドも変わったが、これを野手がハンプルし、この間に二塁走者が一塁生還し、先制点を許した。更に次打者へは死球を与え、傷口を広げたかたに見えたが、次打者を凡打に斬り、最少失点の1点でこの回を終えた。その裏には、先頭を四球で出塁を許したが、自らの牽制で一塁走者をアウトにし、この回も無難に収めた。しかし、打線においては、4回を終えた時点で僅か1安打、奪四球も1と、何とか出塁したいところである。ゲームが次に動いたのは、翌5回の攻撃、この回先頭の昌平、彼は、本日39度の熱を出し、ダブル1試合目は欠場した。しかし、少し下がった事から、自身の意思で出場している、その彼に投じた2球目を振り抜くと打球は、レフトの頭上を大きく超える。そんな病み中の体に鞭を打ち、一塁生還し、レフトオーバーのRHで同点とした。この後、後続は安打で出塁したが、続かずこの回1点止まり。その裏疲れが見え始めたか？四球の連発で苦しんだが、ラッキーな遊直でダブルとし、この回もゼロ封とした。そして、翌攻撃でも、見せ場を作る。二死となり、打席に入った祐太朗、最近開き気味故、打球は引っかけ気味の三塁ゴロが多いが、3球目を綺麗に振り抜くと打球は左中間を真っ二つ、こちらは、余裕でホームインし2点目、そして、次打者梶原が相手失策で出塁すると、前の打席にRHを決めた昌平が打席に入る。その昌平が3球目を今度は、右中間に運ぶ、この打球で一塁より梶原が一塁ホームインし、この回2点目を追加した。しかし、まだまだ予断を許さないゲーム展開。その裏の攻撃でこの回先頭打者に、レフト前に運ばれ、守備の拙さも加わり走者を二塁に進める。しかし、後続は中直に斬るが、後続二打者には、連続四球を与え、一死満塁と絶対的なピンチを迎える。が、最後の力を振り絞った光希が、後続二打者を連続三振に斬り、この回をゼロに抑え、結果3：1で勝利を収めた。今日を振り返ってみると、先ずは二人の二本の長打が勝利を呼んだ。更に積極的な走塁がゲームを決めた。しかし、逆に考えると、この二本が無かったら、敗戦だったかもしれない。それには、相手投手が良い場合は、四球の選択が難しい、ならば、打者が打席で工夫して出塁を心掛けなければ、勝利は無いだろう。いつ何時も同じようにぶんぶんでは如何なものか？

また、投手においては、奪三振も多いが、与四死球8では、単純に劣せず2点を与えている計算になる。個の結束が輪になり、それが、良い方向に転がり勝利となるが、先ずは、輪にする前の個を、個がもう少し考えなければ、と思う内容に感じた。